

# コウノトリ但馬空港 第1回 利活用検討会議



平成26年8月26日（火）



兵庫県

# 1 検討会議の概要

番号	氏名(敬称略)	所属・職名
1	岩見 宣治	東京空港冷暖房(株)・副社長(元 国土交通省大阪航空局長)
2	上村 敏之	関西学院大学経済学部・教授
3	柏木 千春	流通科学大学サービス産業学部・教授
4	神田 武	但馬地域商工会振興協議会・会長
5	黒田 勝彦	(財)関空調査会・理事長(神戸大学名誉教授)
6	田中 稔	但馬空港ターミナル(株)・代表取締役社長
7	中貝 宗治	豊岡市・市長
8	中山 泰	京丹後市・市長
9	西岡 安雄	但馬区長会連合会・会長
10	ひうら さとる	漫画家
11	本田 俊介	日本航空(株)国内路線事業本部・国内路線事業部長
12	宮垣 和生	豊岡商工会議所・会頭

※五十音順

番号	氏名(敬称略)	所属・職名(所在地)
1	一ノ本 達己	(株)マックアース・代表取締役CEO(養父市)
2	沖田 真奈美	(株)アウルコーポレーション・副社長(京丹後市)
3	西村 総一郎	(株)西村屋・代表取締役社長(豊岡市城崎町)
4	由利 昇三郎	(株)由利・代表取締役社長(豊岡市)

※五十音順

※特別構成員は、地域の若手経営者

## 進め方

- ①開催回数 : 年度内に合計5回
- ②開催場所 : コウノトリ但馬空港ターミナルビル内の会議室で行う。
- ③その他 : 年内に「中間とりまとめ(案)」を作成し、年度内に「利活用方策(案)」をとりまとめる。  
とりまとめる内容について構成員の方々からご意見をいただく。

# 開催スケジュールと検討内容

第1回  
(H26.8.26)

- ①現地視察
- ②但馬空港の現状
- ③検討の視点

第2回  
(H26年10月)

- ①但馬空港を取り巻く環境の変化
- ②地域が求める空港の役割
- ③伊丹便運航継続の意義
- ④首都圏との移動利便性向上など路線展開の可能性
- ⑤空港の多面的利用

基礎資料の収集・分析・整理  
・航空旅客動態調査  
(秋頃公表)  
・住民、企業アンケート等

第3回  
(H26年12月)

- ①伊丹便運航継続の意義
- ②首都圏との移動利便性向上など路線展開の可能性
- ③空港の多面的利用
- ④中間とりまとめ(案)

H26年12月 「中間とりまとめ(案)」の公表・意見聴取

第4回  
(H27年 1月)

- ①聴取意見への対応
- ②地域の若手経営者との意見交換※

※特別構成員(地域の若手経営者)に  
会議へ出席していただく予定です。

第5回  
(H27年 3月)

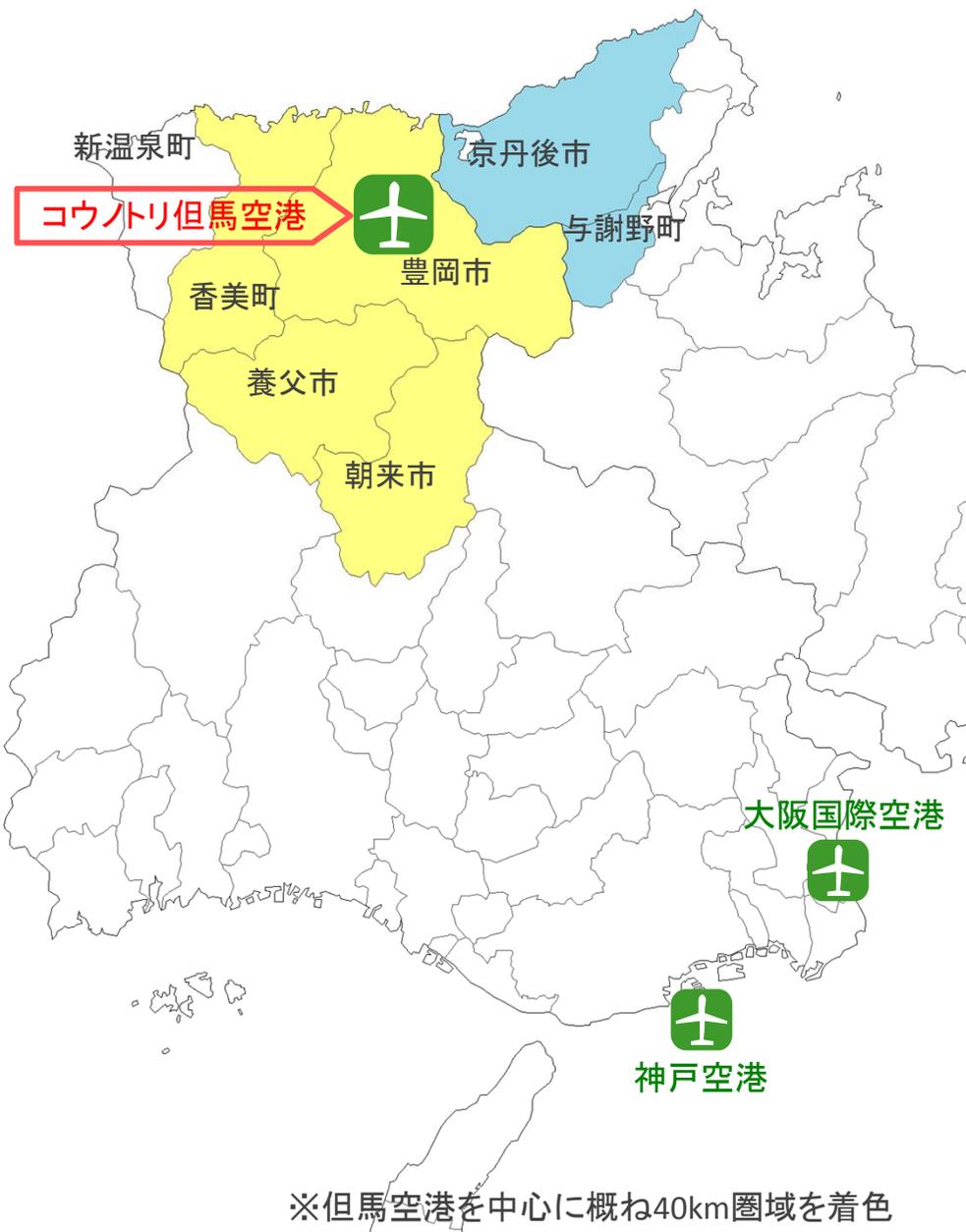
- ①利活用方策(案)とりまとめ

H27年 3月 「利活用方策(案)」の公表  
H27年 5月 シンポジウムの開催

## 2 コウノトリ但馬空港の概要

# コウノトリ但馬空港の背後圏の概要(人口等)

## ■ 人口(平成26年4月1日人口推計)



### [但馬]

市町名	人口(人)
豊岡市	82,726
養父市	24,730
朝来市	31,299
香美町	18,408
合計	157,163
(参考)新温泉町	15,008

### [京都府北部]

市町名	人口(人)
京丹後市	56,122
与謝野町	22,382
合計	78,504

合計 235,667人

## ■ 大阪からのアクセス(大阪府庁～豊岡市役所)

(「Yahoo! 路線情報」の検索結果に駅及び空港における乗継ぎ時間を考慮)

- [鉄道] 約3時間40分(大阪駅～豊岡駅(特急こうのとり) 2時間48分)
- [自動車] 約3時間(舞鶴若狭自動車道→北近畿豊岡自動車道→R312)
- [飛行機] 約2時間40分(伊丹空港～但馬空港 40分)

## ■ 地場産業(出典(財)但馬地域地場産業振興センターHP)

- 靴産業(豊岡市、全国の約7割のシェア、“豊岡靴”をブランド化)
- 金属バネ(朝来市和田山町)
- 竹田家具(朝来市和田山町)
- 出石焼(豊岡市出石町)
- 丹後ちりめん(京丹後市)

# コウノトリ但馬空港の背後圏の概要(観光資源)



①松葉ガニ

・但馬での水揚げ量は全国シェア約30%を誇る



②山陰海岸ジオパーク

・2010年に世界ジオパークネットワークへ加盟認定



③城崎温泉

・2012年「ミシュラングリーンガイドジャポン」で2つ星  
・まち全体でおもてなし



⑩但馬牛

・神戸牛や松坂牛の素牛として有名  
・全国の黒毛和牛の母牛99.9%が但馬牛の子孫



④円山川下流域・周辺水田

・2012年ラムサール条約湿地に登録  
・生きものの豊かさやコウノトリ野生復帰の取り組みが、世界の宝として認められた。



⑨天滝

・落差98メートル、兵庫県内一の落差を誇り、「日本の滝100選」に選ばれている



⑤夕日ヶ浦

・日本の夕陽百選の一つ、最寄りの木津温泉は足湯があるなど温泉地でもある



⑧竹田城跡

・雲海に包まれた姿や竹田城から見下ろす風景は、まさに天空に浮かぶ城を思わせ、「天空の城」「日本のマチュピチュ」とも呼ばれる



⑦出石そば

・江戸時代より続く、歴史ある郷土料理  
・小皿に分けた独特のスタイル、多彩な薬味とダシにこだわったつゆが特徴



⑥琴引浜

・鳴き砂で世界的にも有名な琴引浜  
・日本で最初の禁煙ビーチ

# 空港に関する主な経緯

- 「コウノトリ但馬空港」は、但馬地域の高速交通の空白状態を解消し、交通の利便性を高めるとともに、但馬地域の地域振興に資するために整備

年月	概要
昭和56年 3月	兵庫県「21世紀の生活文化社会計画」の中で地域航空システムの導入を決定
昭和62年 6月	空港基本計画を策定
昭和62年 8月	現地測量・空港基本設計調査を開始
平成 元年 2月	設置許可
平成 2年10月	本体用地造成工事着手
平成 6年 5月18日	開港 日本エアコミュニティ株がサーブ340B型機により定期便の運航開始 (但馬－大阪路線:1便)
平成 7年10月	但馬－大阪路線 2便化開始
平成13年10月	ローライザー(LZZ)* 供用開始
平成14年 1月	「コウノトリ但馬空港」に愛称決定
平成16年 4月	定期便利用客「20万人」達成
平成23年 7月	定期便利用客「40万人」達成
平成26年 2月	東京乗継利用 年間「1万人」達成

※ローライザー(LZZ) :

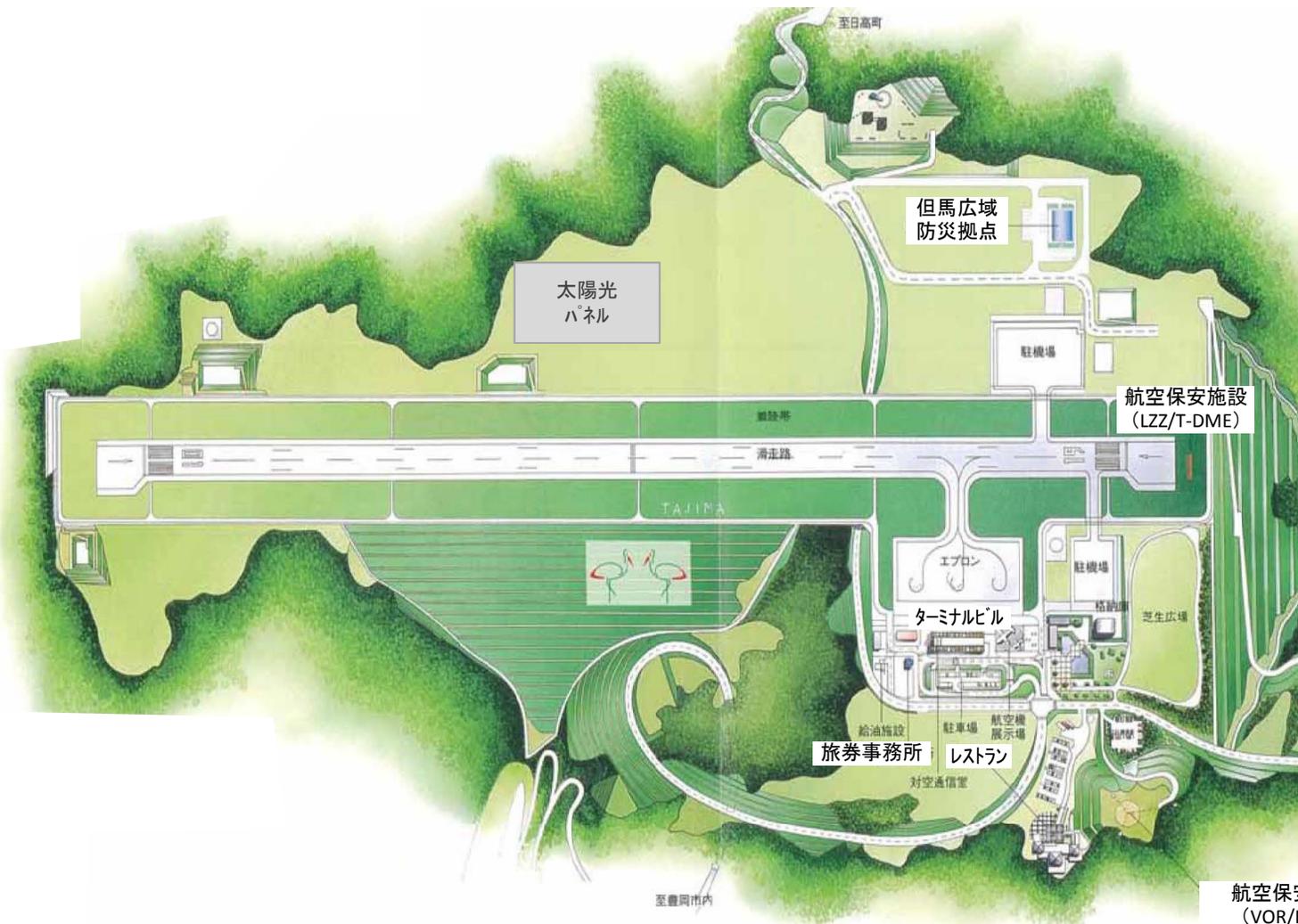
計器着陸装置の一つで、航空機が滑走路の中心から左右に、どの程度ずれているかを示し、視界が悪い時でも安全に滑走路上まで誘導する設備



但馬空港全景



開港式典(平成6年5月)



- (1) 空港の種別：その他空港  
(空港のうち、拠点空港、地方管理空港及び公共用ヘリポートを除く空港)
- (2) 設置管理者：兵庫県
- (3) 設置場所：豊岡市・日高町
- (4) 運用時間：8時30分～18時30分
- (5) 滑走路：長さ1,200m、幅30m
- (6) エプロン：奥行き65m、幅150m  
(小型機3バース)
- (7) 無線施設：VOR/DME(超短波全方向式無線標識施設/距離測定装置)  
LLZ/T-DME(ローカライザー/ターミナル距離測定装置)等
- (8) 照明施設：進入角表示灯、滑走路灯、滑走路末端識別灯等
- (9) 敷地面積：約37.9ha
- (10) 事業費：約179億円
- (11) ターミナルビル：建物延べ床面積2,255m<sup>2</sup>  
(鉄骨2階建て)
- (12) 駐車場：2,030m<sup>2</sup>(約58台) ※無料



レストラン  
滋味あふれる但馬の味に舌鼓。眼下には美しい山並みと豊岡の市街地が広がります。



ロビー・チェックインカウンター



ターミナルビル  
鉄骨2階建て。駐車場は58台収容。会議室、特別会議室も設けています。(延べ床面積2,255m<sup>2</sup>)



航空保安無線施設(LLZ/T-DME)  
誘導電波により、航空機の着陸を援助します。



航空保安無線施設(VOR/DME)  
コソノトリ但馬空港で離発着する航空機に、空港の方位や空港までの距離を知らせます。

## ■ 「21世紀の生活文化社会計画」(昭和56年3月)において地域航空システムの導入を決定

[兵庫県が構想した地域航空システム]

21世紀に向けて魅力と活力に満ちた県土想像のための新しい手段として、県内各地域に小型空港又はヘリポートを整備し、阪神・播磨の中核都市あるいは**主要空港と地方中心都市とを小型機で結ぶ空のネットワークを形成する**

## ■ 地域航空システムの第1段階として、神戸・大阪方面への潜在需要が見込まれる但馬空港について本格的な調査を開始(昭和58年度)

## ■ 検討の結果、運航条件(気象、障害物等)、社会条件(環境、利便性等)で他の候補地より優れている現在の位置を空港の適地として選定

[想定運航機材]

○運航機材 : サーブ340B

○定員 : 36人乗り

○選定理由 :

- ・大阪国際空港への乗り入れが可能となる安全性を有する機材
- ・陸上交通機関との競合性を考慮し、良好な居住性、快適性が確保できる機材
- ・採算性を向上させるため、団体旅行客を誘致できるよう30席以上の席数を有する機材

[滑走路長]

○上記想定運航機材の離発着が可能である滑走路長さ1,200mとして計画



サーブ340B

# 空港の立地状況



- JR豊岡駅から直線で南西に約4km、標高176mの場所に立地
- 主な公共交通手段は、路線バス
  - ◇城崎温泉駅 → JR豊岡駅 → 空港
    - 8:51 → 9:15 → 9:30
    - 16:56 → 17:20 → 17:35
    - ※但馬→大阪(伊丹)便の約30分前に但馬空港に到着
  - ◇空港 → JR豊岡駅 → 城崎温泉駅
    - 9:45 → 10:00 → 10:24
    - 17:45 → 18:00 → 18:24
    - ※大阪(伊丹)→但馬便の到着約10分後に但馬空港を出発

# 定期便の概要

平成26年8月1日現在

(1) 就航路線 : コウノトリ但馬空港～大阪国際空港  
(区間距離175km)

(2) 便数 : 2便/日

(3) 航空会社 : 日本エアコミュータ株(JAC)

(4) 運航機材 : サーブ340B(座席数 36席)

(5) 運賃

- ①大人普通 14,000円
- ②小児普通 7,000円
- ③特便割引(全便適用・予約は前日まで) 8,100～9,200円
- ④先得割引(適用便限定・予約は28日前まで) 7,100円

(6) 運航ダイヤ

[夏ダイヤ] H26.3.30～10.25

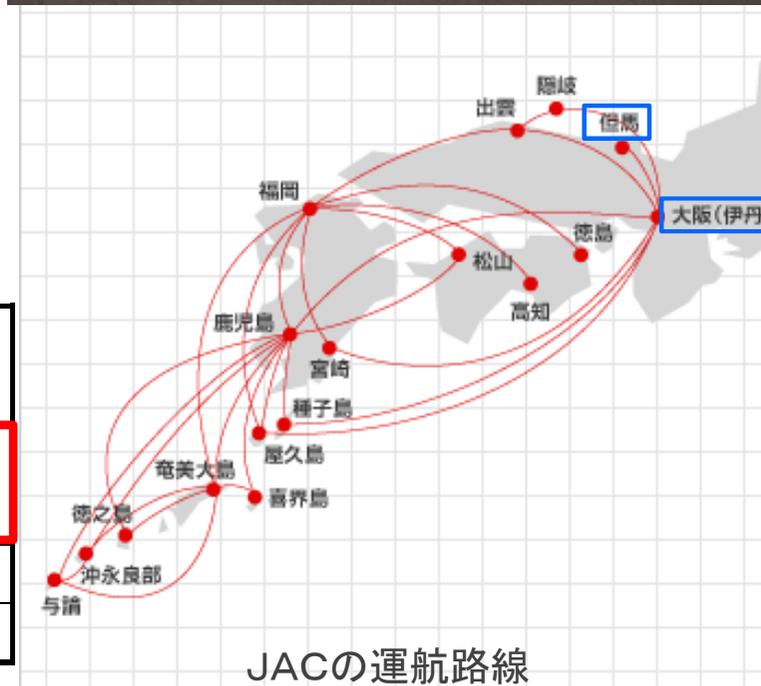
羽田	7:30	12:40	15:30	20:40
大阪	8:35	11:30	16:35	19:30
大阪	8:55	10:40	17:00	18:45
但馬	9:35	10:00	17:40	18:05
～大阪	40分	40分	40分	40分
～羽田	2時間5分	2時間40分	2時間10分	2時間35分

[参考] 昨年(前年)の冬ダイヤ

羽田	7:30	12:35	12:30	17:35
大阪	8:40	11:30	13:40	16:30
大阪	9:05	10:50	14:20	16:05
但馬	9:45	10:10	15:00	15:25
～大阪	40分	40分	40分	40分
～羽田	2時間15分	2時間25分	2時間30分	2時間10分



但馬空港における降機状況



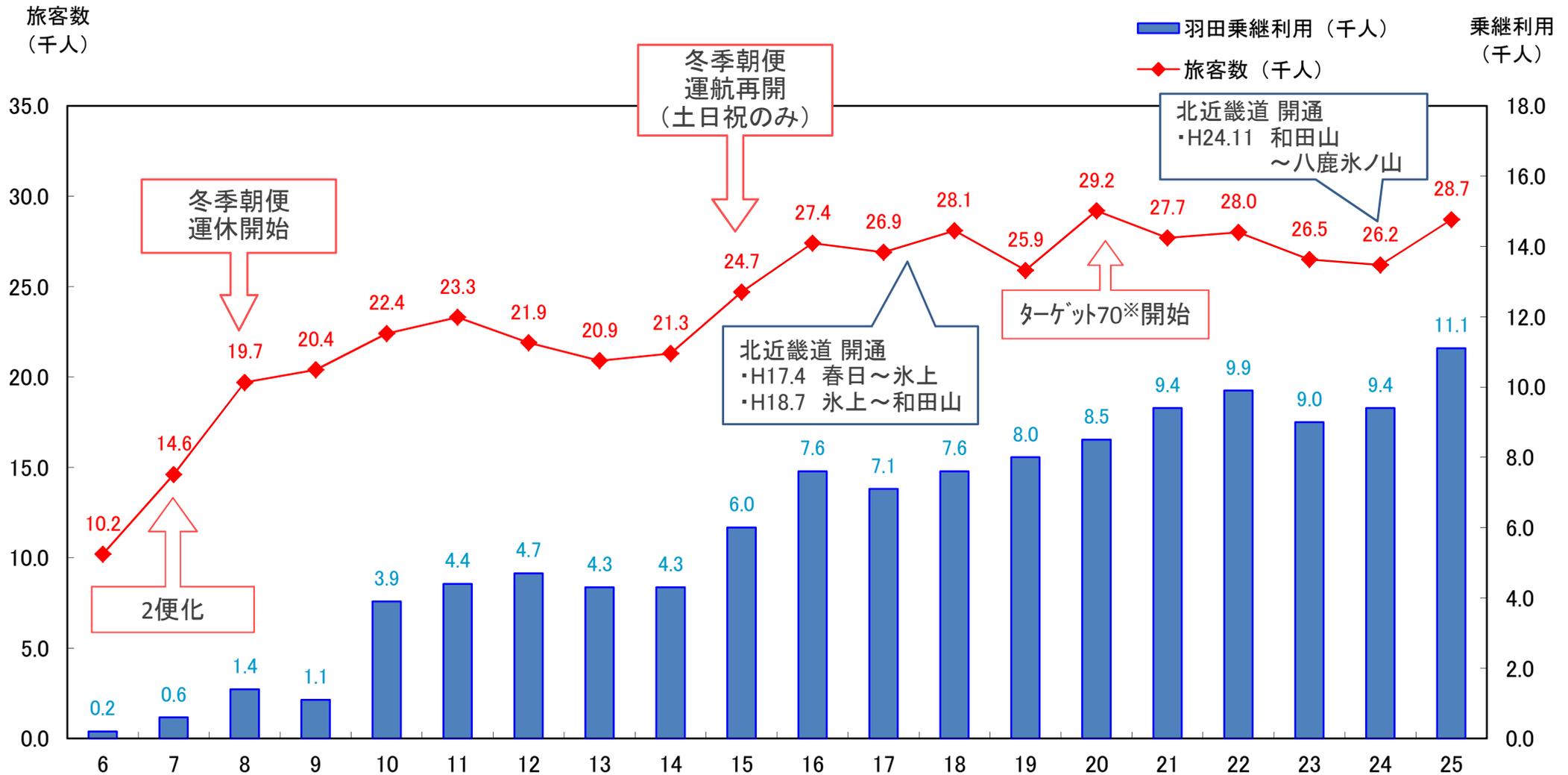
JACの運航路線

## 3 コウノトリ但馬空港の現状

### (1) 空港の利用状況

# 定期便の利用状況(利用者数の推移)

- 開港以来、2便化した平成7年10月以降、概ね2万人台で右肩上がりに増加  
(過去最高の利用者数=29,161人(平成20年度))
- 平成25年度に、初めて東京乗継ぎ利用者が1万人を突破(11,113人)
- 利用率(搭乗率)の直近5年平均値は62.1%(H21~H25=60.2~65.1%)



※ターゲット70: 年間利用率(搭乗率)70%達成に向けた、但馬空港推進協議会を主体とした取り組み

# 定期便の利用状況(月別の利用者数)

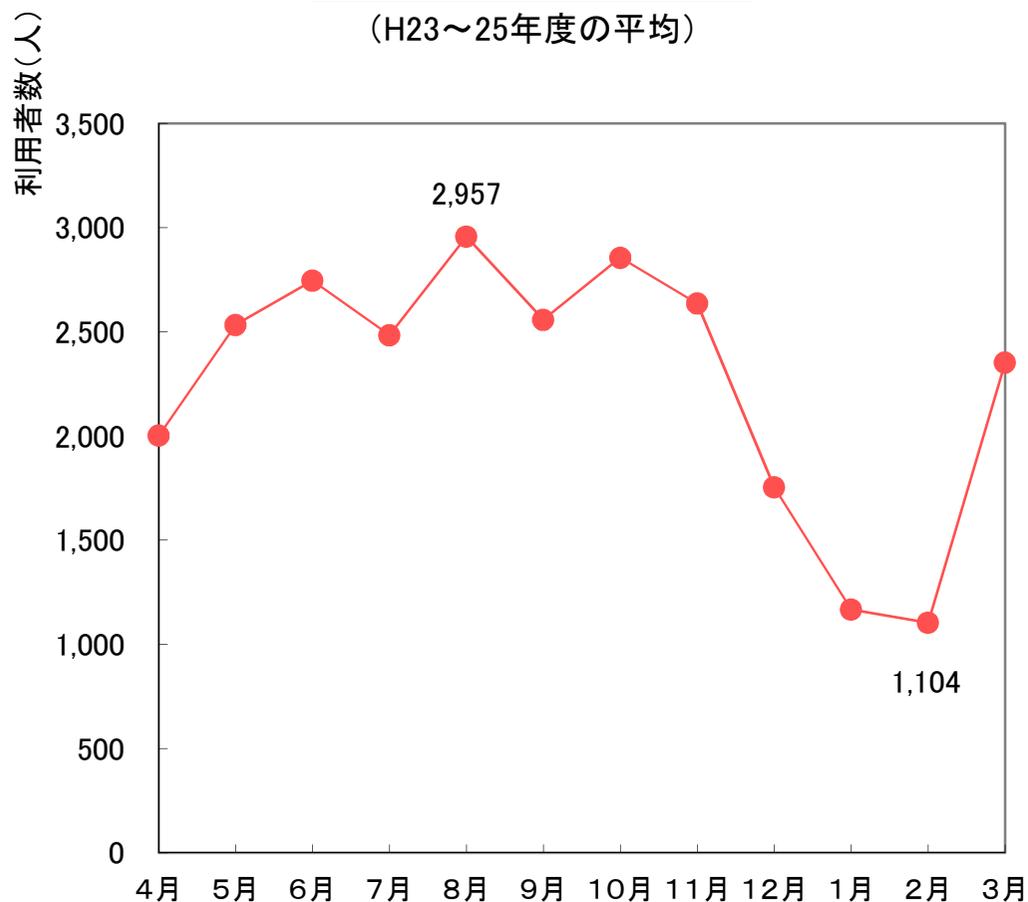
■ 欠航の多い冬季(12月~2月)を除いて、利用者数は概ね安定。

※H23及び24年度の1月、2月は、平日1便運航(2便運航は土日祝のみ)であることも利用者数が少ない一つの要因と推定される。

※H25年度冬季から、全日2便運航となった。

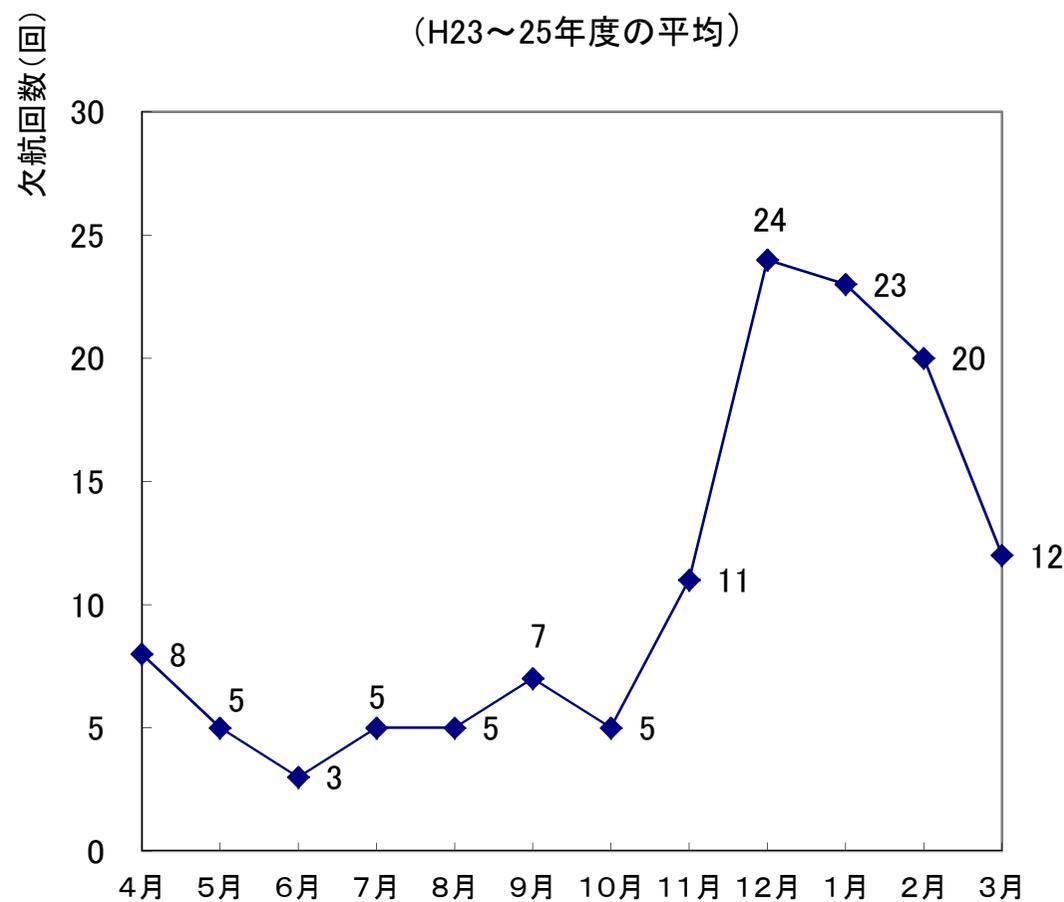
### 但馬空港利用者数の推移

(H23~25年度の平均)



### 欠航回数の推移

(H23~25年度の平均)



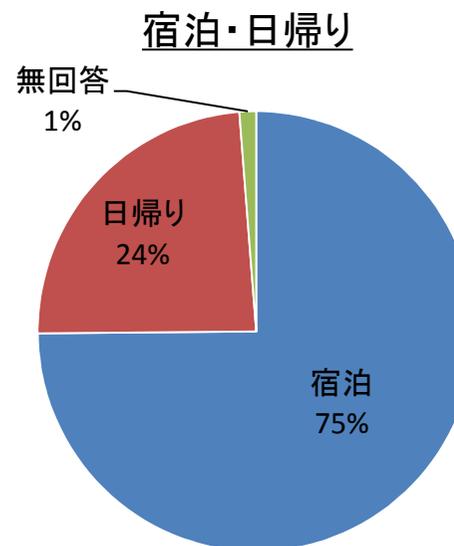
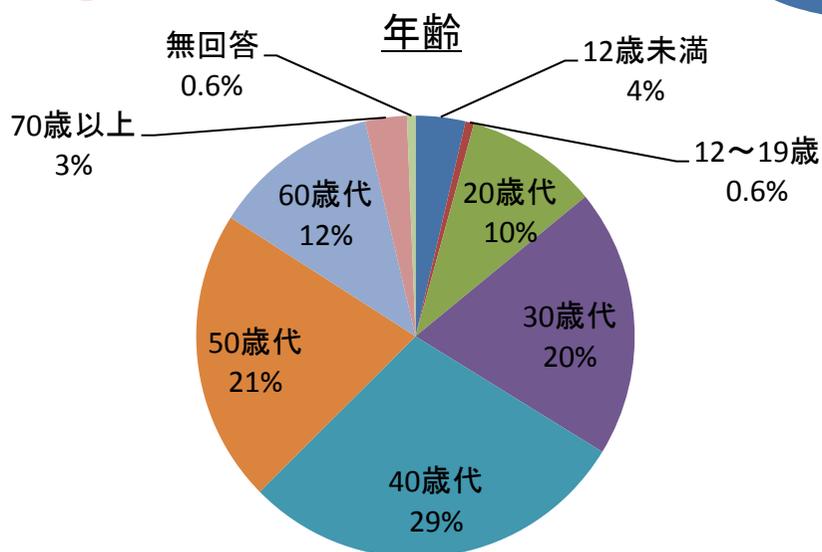
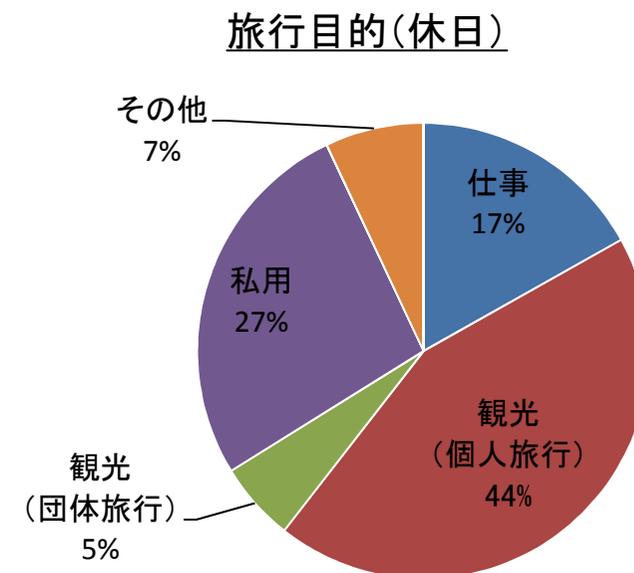
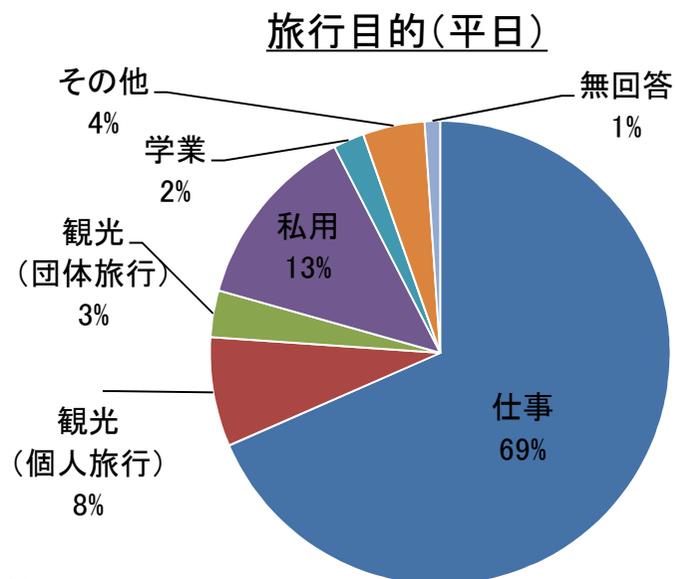
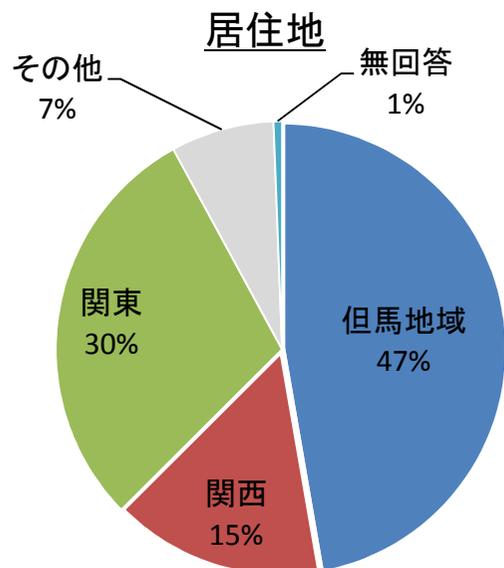
# 定期便の利用特性①

## ■ H26年4月にアンケート調査を実施

○実施日：4月21日(月)、23日(水)、27日(日)の3日間

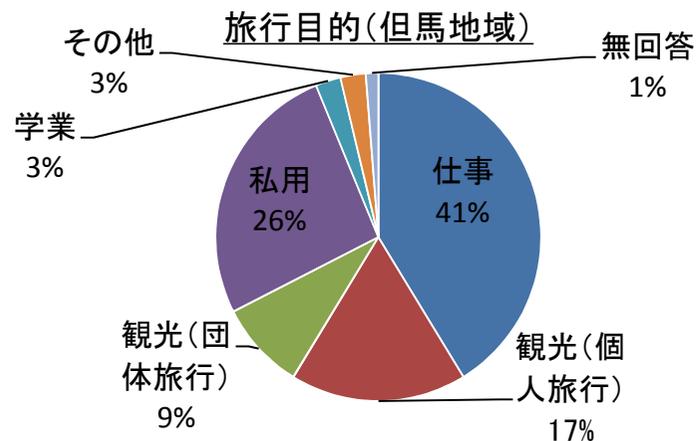
○有効回答率：71%(回答数 163名/利用者数 229名)

○伊丹→但馬、但馬→伊丹の両便を調査(伊丹→但馬 回答数 82名、但馬→伊丹 回答数 81名)

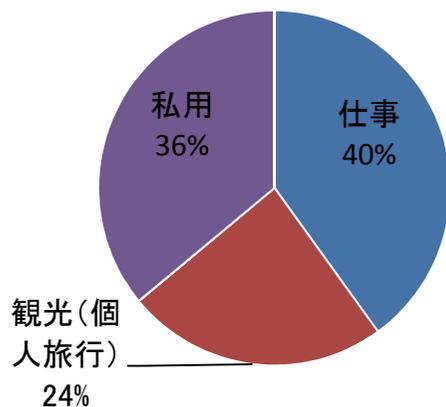


# 定期便の利用特性②

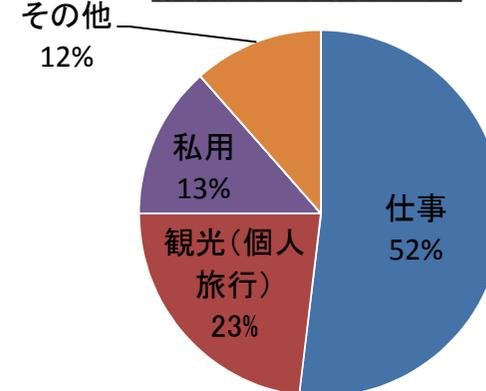
## ■ 居住地別の旅行目的



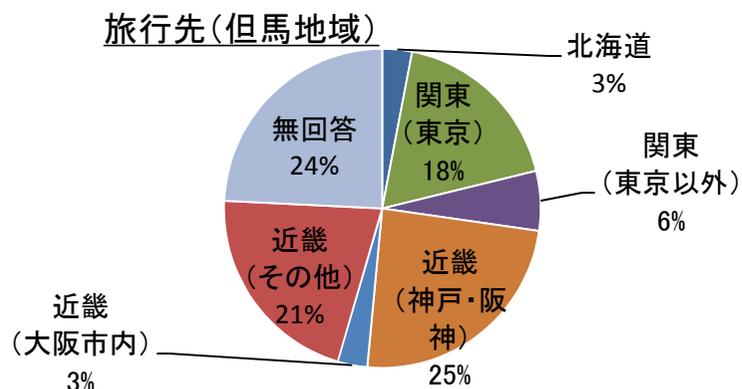
旅行目的(関西地域)



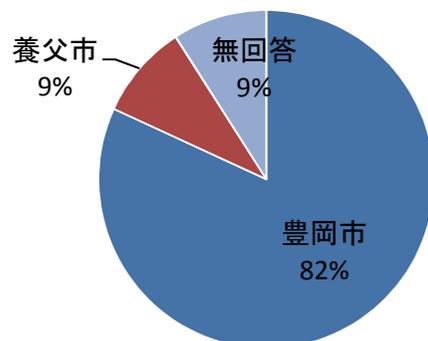
旅行目的(関東地域)



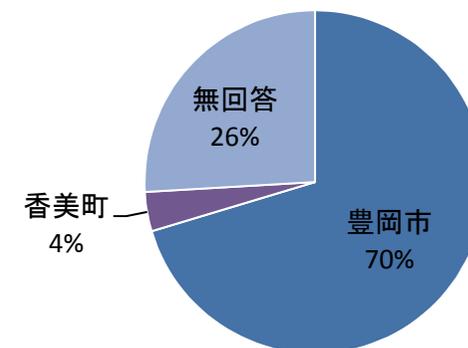
## ■ 居住地別の旅行先(仕事)



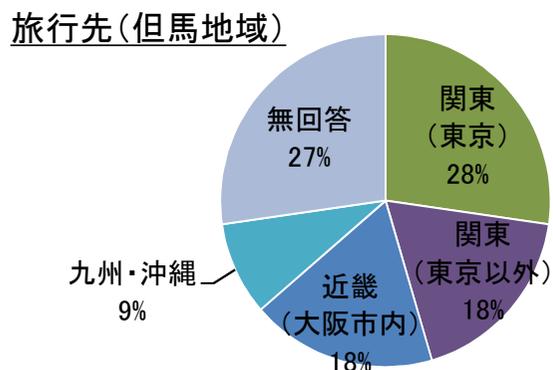
旅行先(関西地域)



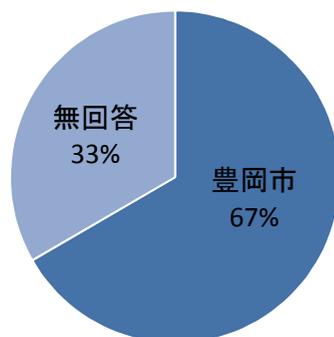
旅行先(関東地域)



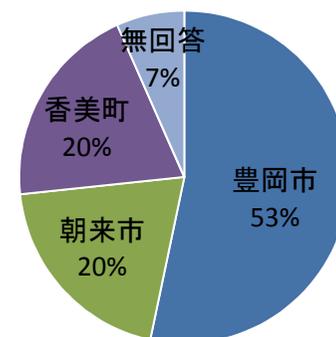
## ■ 居住地別の旅行先(観光)



旅行先(関西地域)



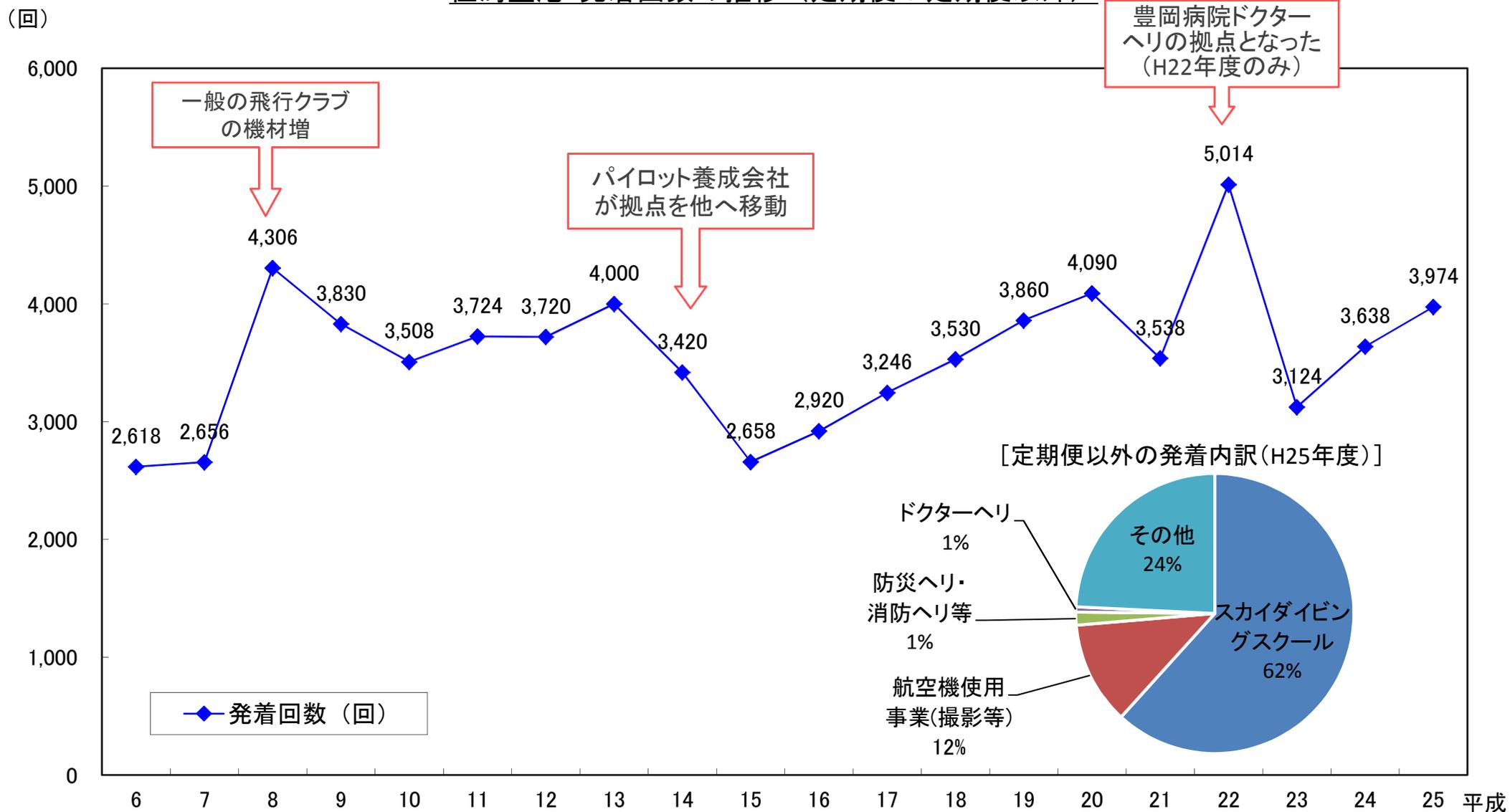
旅行先(関東地域)



■ H25年度実績は、定期便 1,332回＋ 定期便以外 2,642回＝3,974回

※発着回数は、到着、出発をそれぞれ1回と計上(1機の1回飛行につき、2回と計上)

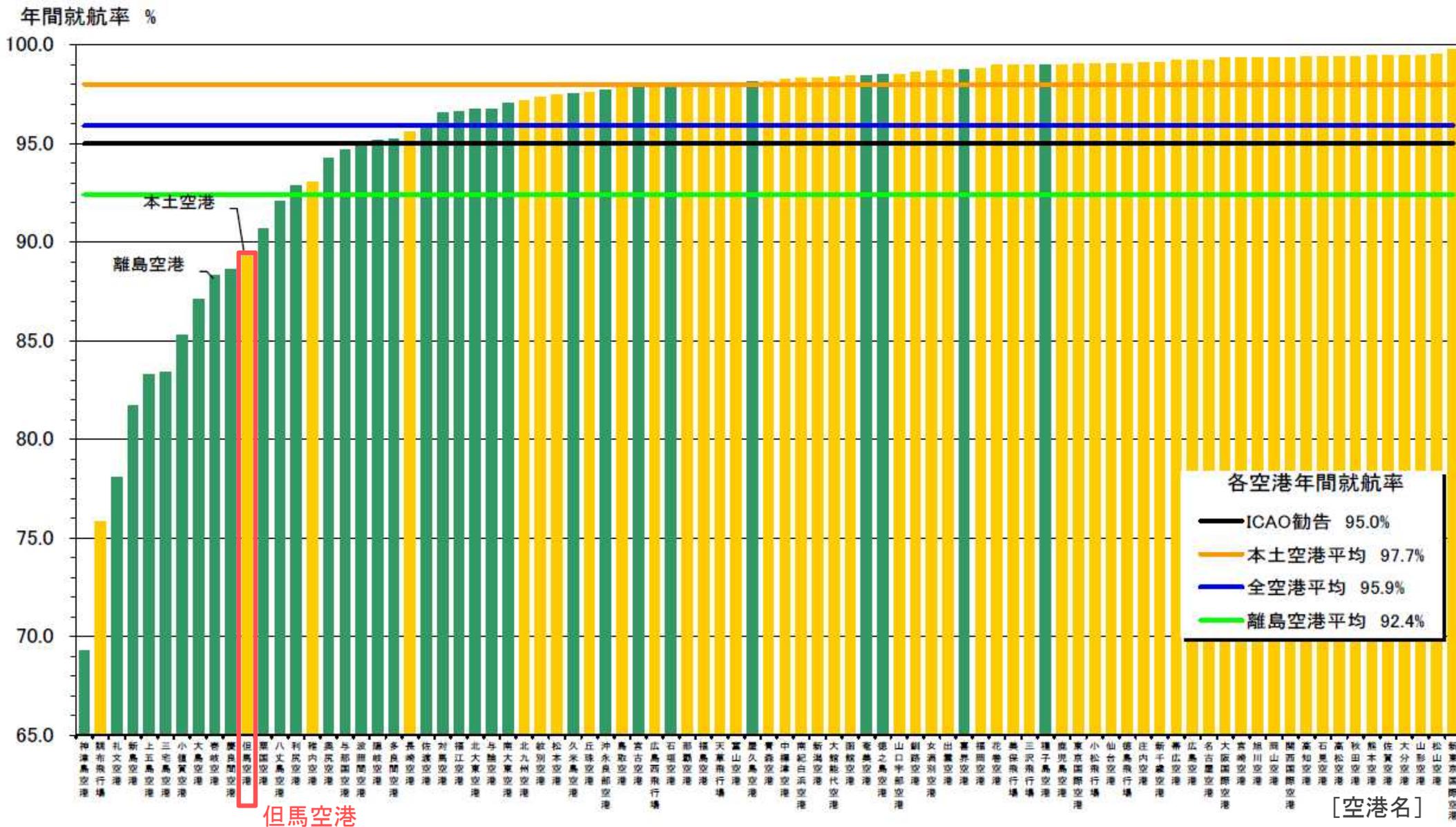
## 但馬空港 発着回数の推移 (定期便＋定期便以外)



# 定期便の就航状況(就航率)①

- 平成21～25年度の平均就航率は92%
- 全国の本土空港でみると、下から2番目の低い就航率となっている

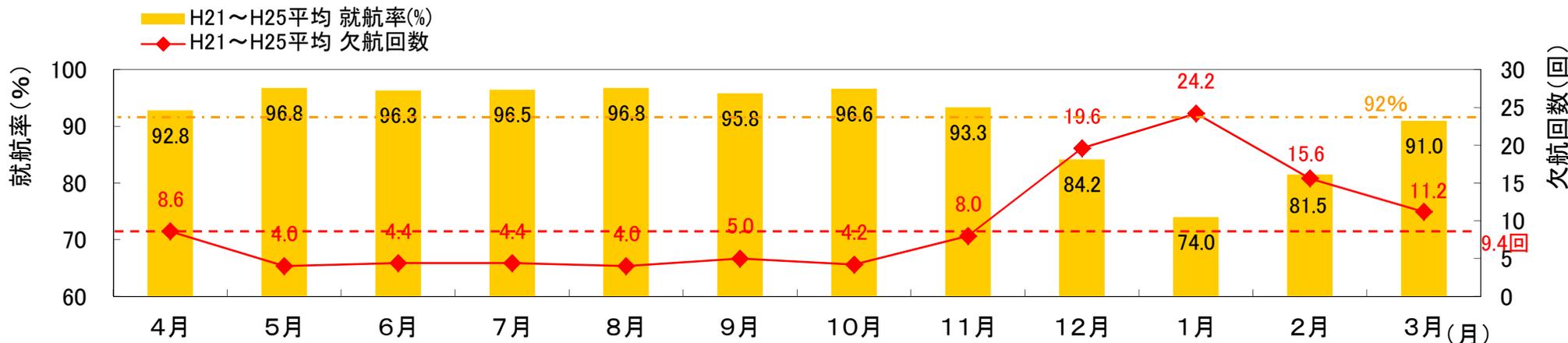
[出典]国土交通省 交通政策審議会 航空分科会 第7回空港整備部会(平成14年6月)



# 定期便の就航状況(就航率)②

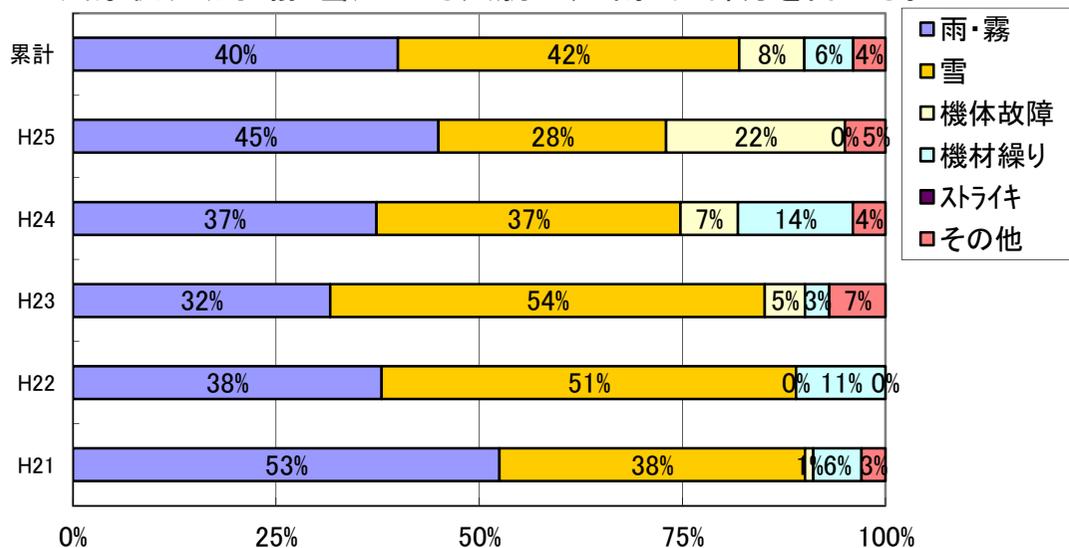
## ■ 月別の就航率・欠航回数(平成21～25年度)

年間平均就航率=92%、月間平均欠航回数=9.4回



## ■ 欠航理由別の占有率(平成21～25年度)

気象状況(雨・霧・雪)による欠航が、8割と大部分を占める。



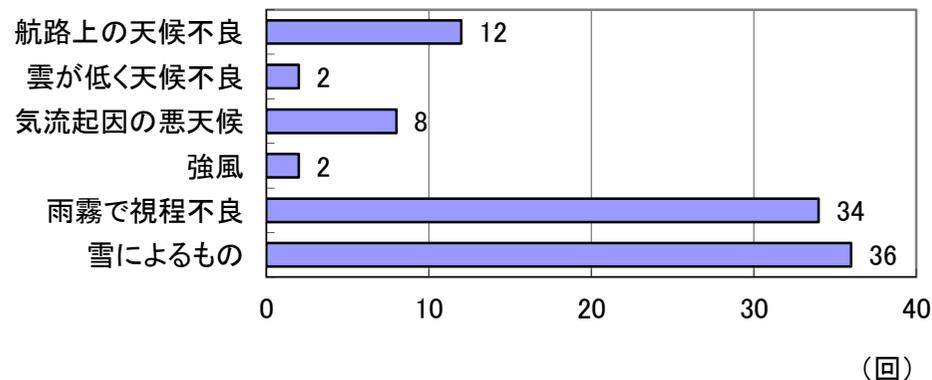
年度	H21	H22	H23	H24	H25	合計
回数	80	106	145	107	128	566

※欠航回数が多い理由

H23年度: 豊岡市内では、28年ぶりに1mを超える積雪であったため

H25年度: 10月、11月に偶発的に機材故障が集中

## ■ 気象状況(雨・霧・雪)による欠航詳細(H25年度)



雪によるもの	36
雨霧で視程不良	34
強風	2
気流起因の悪天候	8
雲が低く天候不良	2
航路上の天候不良	12
合計	94

・但馬地域は、積雪地域であることから雪による欠航回数が36回と一番多い。

・二番目の欠航理由は、雨・霧による視程不良となっている。

## 3 コウノトリ但馬空港の現状

### (2) 空港をとりまく環境



- 全国幹線旅客純流動調査(H22年度)では、但馬空港背後圏(但馬地域及び丹後地域)と首都圏との年間流動は約15.4万人。
- 航空の分担率は24%であり、航空利用者が増加するポテンシャルは大きい。(山陰地方は50%以上の航空分担率)

※但馬空港背後圏: 但馬空港から概ね40km圏域(自動車で1時間程度)

※但馬地域: 豊岡市、養父市、朝来市、香美町

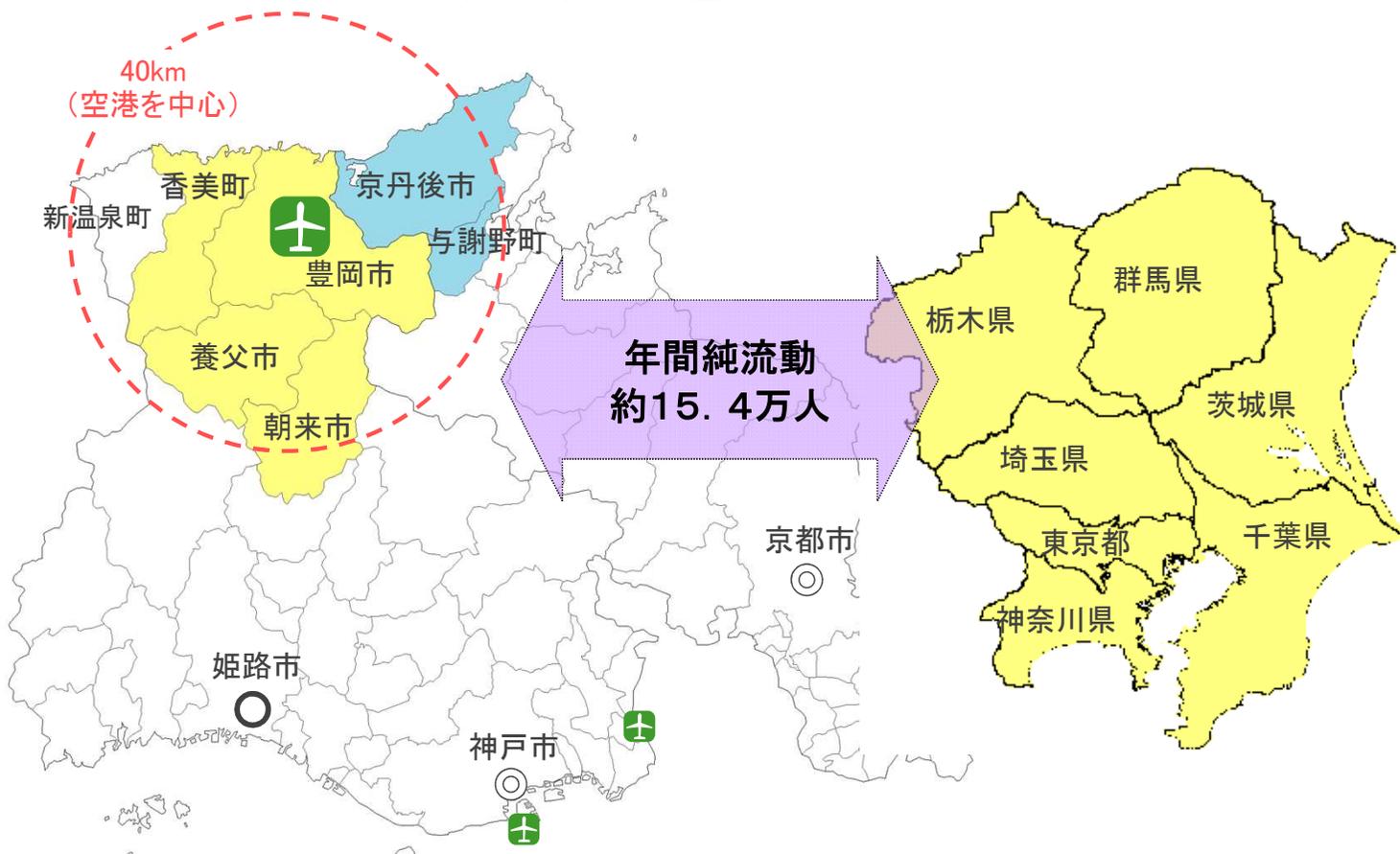
※丹後地域: 京丹後市、与謝野町

※首都圏: 1都6県(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)

※航空分担率: 利用空港は、但馬空港以外の伊丹空港、神戸空港、鳥取空港を含む

## ○但馬・丹後地域と首都圏の年間旅客流動

[出典] 平成22年度 全国幹線旅客純流動調査(国土交通省航空局)



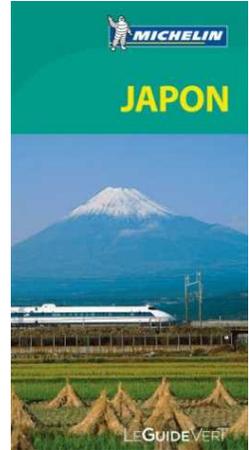
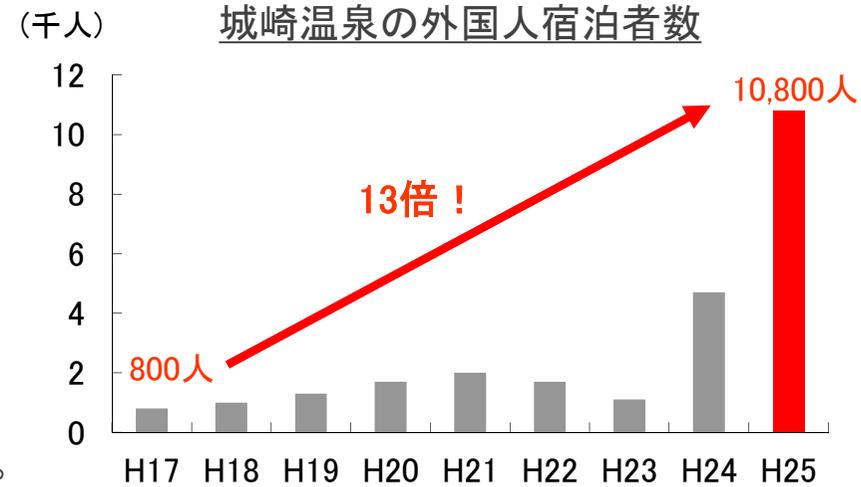
[豊岡市役所と東京都庁間の旅行時間]

交通手段	経路	所要時間
鉄道	豊岡—京都—品川	約5時間50分
	但馬—伊丹—羽田	約4時間30分
航空	伊丹—羽田	約5時間10分
	神戸—羽田	約6時間00分
	鳥取—羽田	約4時間40分

※「Yahoo!路線情報」により検索  
 ※出発空港までは自家用車を利用  
 ※出発空港における搭乗手続きは30分を考慮

## 外国人旅行客の動向

- ①9年前に比べ、城崎温泉の外国人宿泊者数は13倍と急増。  
(H17年度:800人 → H25年度:約1.1万人)
- ②平成25年、旅行ガイドブック「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」(フランス語版)に、城崎温泉が、二つ星(寄り道をして訪れるべき場所)として掲載。
- ③但馬空港の外国人利用はほとんど見られない(年間30人程度)。→ 航空機利用の伸びしろは大きい。



ミシュラングリーンガイドジャポン

## 急増する観光客

9年前に比べ、竹田城跡への観光客数は約42倍と急増  
(H17年度:2,000人 → H25年度:510,000人)



## 新たな観光需要のきざし「アーティスト・イン・レジデンス」(豊岡市)

- ①世界に向けたアーティスト・イン・レジデンス「城崎国際アートセンター」が今年4月26日城崎温泉にオープン。  
(国内外から各種の芸術創作活動を行う芸術家を招へいし、作品制作の環境を提供)  
⇒今年度下半期、世界6ヶ国の25組から利用の応募。
- ②今年6月12日～15日、日本劇作家大会を「城崎国際アートセンター」で開催(集客数:延べ7,400人)
- ③既存の観光資源に、芸術・文化を組込んだ、今後の新たな観光需要に期待大

城崎アートセンター



<p>PR活動・ 旅行商品</p>	<p>①但馬空港PRキャンペーン(H25年度:延べ23日間開催) ・阪神地域、首都圏でのPR活動</p> <p>②広報媒体による空港,旅行商品PR(H25年度:197回実施) ・情報誌、新聞、ラジオ、ムルマガ等11媒体で実施</p> <p>③旅行商品(H25年度:2,484人利用) ・JALパック、読売旅行と提携し、首都圏発、大阪発、但馬発の旅行商品を8種販売</p> <p>④空港イベント ・但馬空港フェスティバル(H25年度:46,000人集客)、但馬空の自然教室(H25年度:1,000人集客)</p>
<p>アクセス</p>	<p>①但馬空港アクセス路線バス ・城崎温泉⇄豊岡駅⇄但馬空港を、地元バス会社の協力を得て運行 ・運行経費の一部を推進協議会が助成</p>
<p>利便性向上</p>	<p>①Air &amp; Bus プラン(H25年度:226人利用) ・往路は但馬発伊丹行き航空機、帰路は大阪、神戸から特急バス。 ・航空便のダイヤの少なさを特急バスでカバーする旅行商品</p> <p>②但馬発便欠航代替バス(H25年度:313人利用) ・但馬空港からJR新大阪駅経由伊丹空港行き代替バスを地元バス会社の協力を得て運行。 (急な欠航に対応) ・運行経費の一部を推進協議会が助成</p>
<p>運賃助成</p>	<p>①運賃助成サービス(H25年度:15,310人利用) ・地元住民等への航空運賃の一部を地元市町と推進協議会が助成。 利用者負担は、概ね鉄道特急並み (参考:鉄道特急料金4,750円[JR豊岡駅→JR大阪駅])</p> <p>特割1の場合 運賃8,100円－助成金4,000円＝利用者負担4,100円</p> <p>普通料金の場合 運賃14,000円－助成金7,800円＝利用者負担6,200円</p>
<p>その他</p>	<p>毎年2回航空機利用者アンケートを実施し、顧客ニーズを把握。</p>

※但馬空港推進協議会 : 地元3市2町をはじめ、商工会、自治会、婦人会等102団体で構成されており、地域をあげて空港の利用促進を実施。

## ■ 南紀白浜空港(羽田便)



南紀白浜空港			
種別	地方管理空港	滑走路長	2,000m
便数	3便	旅客数	101千人
背後圏	御坊市、田辺市、美浜町、日高町、由良町、印南町 みなべ町、日高川町、白浜町、上富田町、すさみ町		
上記人口	195千人		

## ■ 石見空港(羽田便)



石見空港			
種別	地方管理空港	滑走路長	2,000m
便数	1便	旅客数	71千人
背後圏	益田市、浜田市、吉賀町、津和野町、萩市、阿武町		
上記人口	176千人		

- ・類似空港の定義：背後圏域内を新幹線が通過しておらず、県庁所在地に位置していない本州の空港
- ・背後圏域は空港を中心に概ね40km内と想定
- ・旅客数：H25年度航空輸送統計年報(国土交通省)
- ・便数：H26年3月末現在
- ・人口：H26年4月1日現在の推計人口

# 山陰地方における空港の概要

隠岐空港	
種別	地方管理空港
滑走路長	2,000m
路線	大阪(1便)、出雲(1便)
旅客数	50千人

米子空港	
種別	共用空港
滑走路長	2,500m
路線	羽田(5便)、成田(2便) 神戸・茨城(2便)
旅客数	577千人

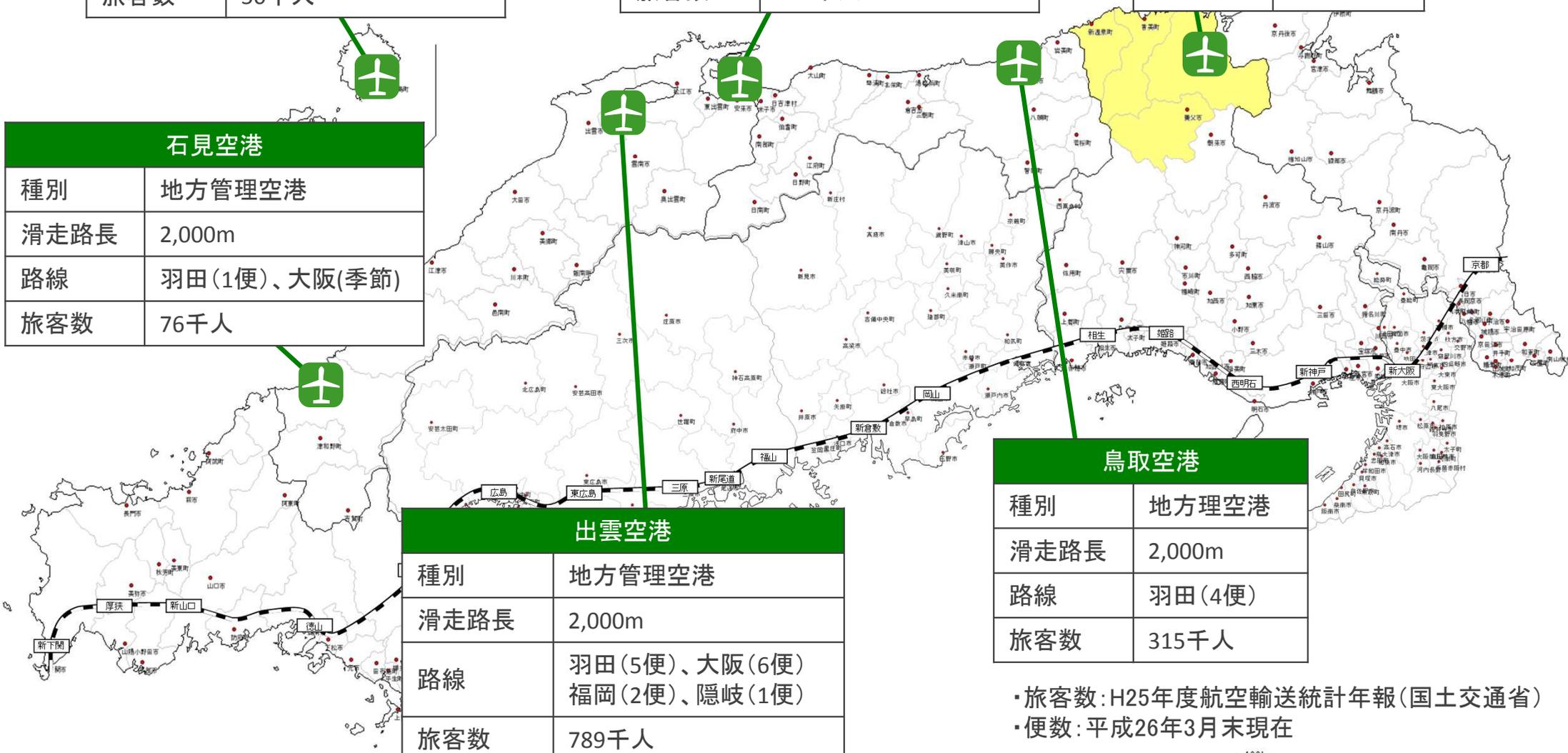
但馬空港	
種別	その他空港
滑走路長	1,200m
路線	大阪(2便)
旅客数	28千人

石見空港	
種別	地方管理空港
滑走路長	2,000m
路線	羽田(1便)、大阪(季節)
旅客数	76千人

出雲空港	
種別	地方管理空港
滑走路長	2,000m
路線	羽田(5便)、大阪(6便) 福岡(2便)、隠岐(1便)
旅客数	789千人

鳥取空港	
種別	地方理空港
滑走路長	2,000m
路線	羽田(4便)
旅客数	315千人

- ・旅客数: H25年度航空輸送統計年報(国土交通省)
- ・便数: 平成26年3月末現在

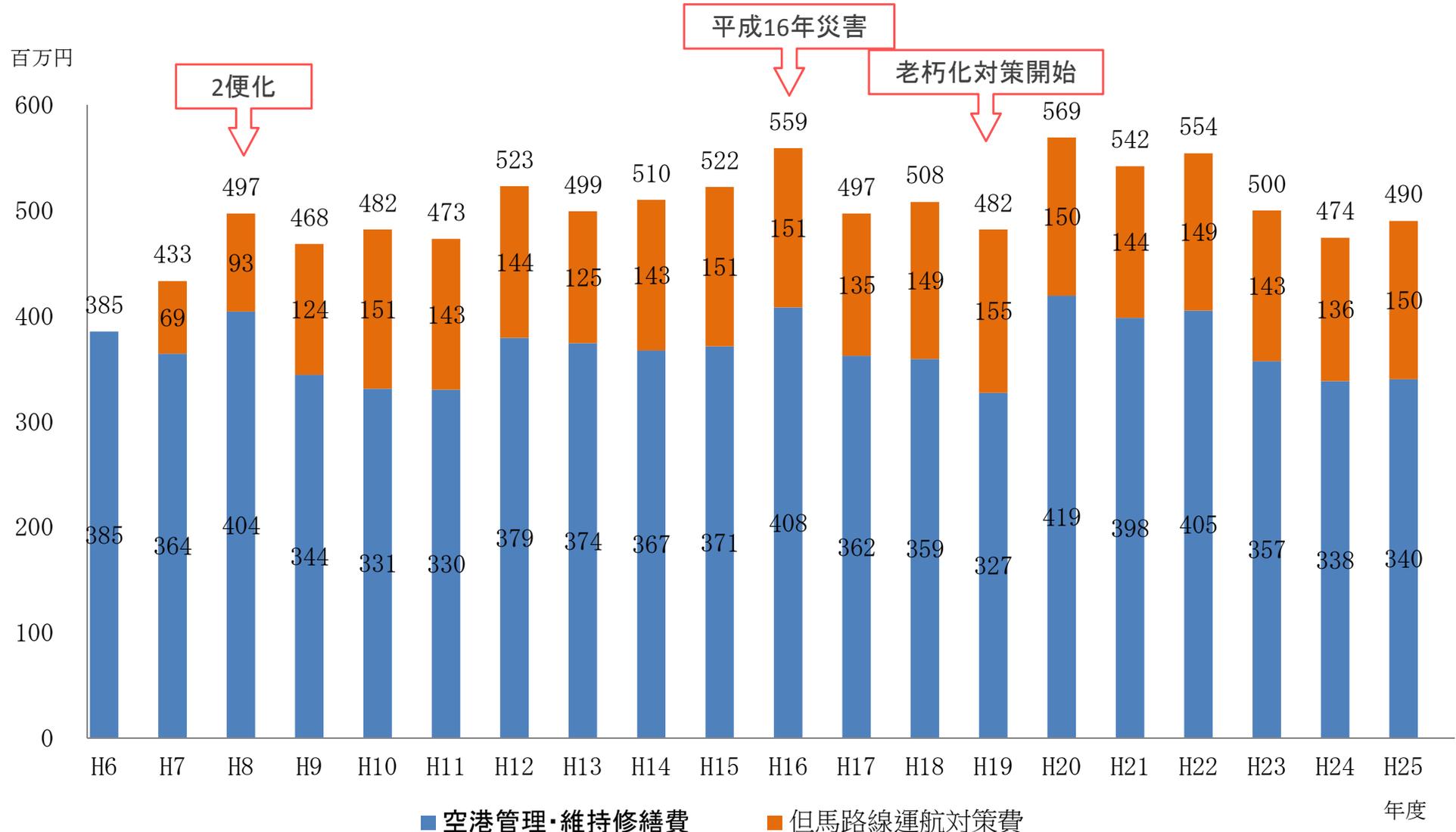


## 3 コウノトリ但馬空港の現状

### (3) 運営状況

# 空港に関する県の支出状況の推移

- 但馬路線運行対策費は、2便化以降、約140百万円で推移
- 空港管理・維持修繕費は、平成19年度から開始した老朽化対策により、支出が増加したが、業務改善等に取り組んだ結果、近年は減少傾向
- 現在、ぎりぎりの人員配置で管理・運営しており、現状では更なる経費削減は困難



※空港管理・維持修繕費に管理事務所人件費は含まない。

- 平成17年以降は、黒字基調を堅持
- 指定管理者としてターミナルビル等空港周辺施設の管理・運営をしており、県から指定管理料を支給（平成25年度指定管理料:50,252千円(税抜)）

## 損益計算書

自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日 (単位:円)

科 目	金 額	参考(計上項目)
売 上 高	112,428,634	燃料販売収入、テナント料収入、指定管理収入等
売 上 原 価	43,746,988	燃料仕入、共益費等
売 上 総 利 益 金 額	68,681,646	
販売費及び一般管理費	66,372,420	人件費、修繕費、減価償却費等
営 業 利 益 金 額	2,309,226	
営 業 外 収 益	1,126,459	受取利息等
営 業 外 費 用	1	固定資産税除去損
経 常 利 益 金 額	3,435,684	
特 別 利 益	11,556,140	航空機売却益
特 別 損 失	11,556,140	施設改修費
税引前当期純利益金額	3,435,684	
法人税、住民税及び事業税	1,997,200	
当 期 純 利 益 金 額	1,438,484	

## 1 民活空港運営法の概要

### <法律の概要>

- ①従来は、空港本体の管理は空港の設置・管理者である県に限られていた。
- ②今後は、P F I 法に基づく手続きを踏まえた場合に限り（公共施設等運営権の設定）、県が施設を保有したまま民間が空港本体を運営できる。⇒空港本体とターミナルビルの一体的な運営が可能。

### 民活空港運営法（H25.6）

従 来：空港の管理・運営は官（空港の設置管理者）が実施  
成立後：運営権を設定すれば（改正PFI法）、民間事業者が空港を管理・運営できる

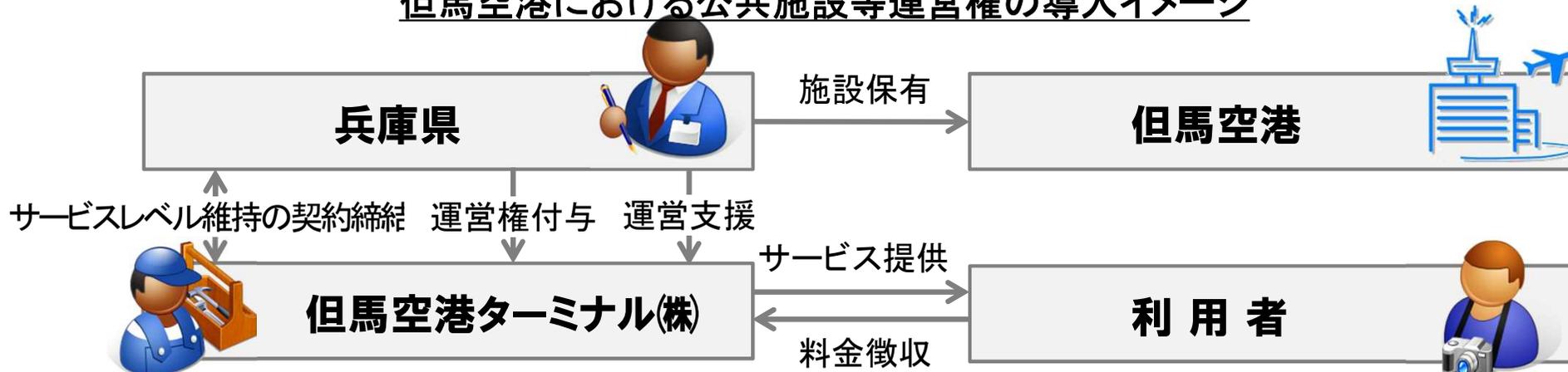
### 改正PFI法（H23.5）

従 来：サービス内容・利用料金は官（施設管理者）が決定  
改正後：上記を民間事業者が決定（運営権を設定）

民間による空港の一体経営が可能

- ・ 経営の効率化
- ・ 多様なサービスの提供、収益力の強化
- ・ 地域経済の活性化

### 但馬空港における公共施設等運営権の導入イメージ



## 2 公共施設等運営権の概要

項目	公共施設等運営権の概要
1 目的	但馬飛行場の空港基本施設と空港周辺施設の一体的な運営体制を整備し、空港運営の効率化を図る
2 公共施設の名称	兵庫県立但馬飛行場（但馬空港）
3 公共施設等運営権者	但馬空港ターミナル株式会社
4 公共施設等運営権の存続期間	平成26年6月11日から平成32年3月31日まで (事業開始日は平成27年1月1日)
5 対象施設等	滑走路、ターミナルビル、駐車場、空港公園など、空港用地にある全ての施設とその土地
6 運営等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 空港運営事業 空港の維持管理業務、空港の運営業務、着陸料等の設定及び 国土交通大臣への届出並びにその收受</li> <li>(2) 空港航空保安施設運営事業 空港航空保安施設の維持管理業務、空港航空保安施設の運営業務、空港航空保安施設の使用料金を設定する場合、国土交通大臣及び 県への届出並びにその收受</li> <li>(3) 環境対策業務</li> <li>(4) その他附帯する事業 運営権者が実施義務を負う事業（ターミナルビル事業等）、運営権者が任意で行う事業、利用料金の設定及びその收受</li> </ul>

## 4 検討の視点

## ■ 伊丹便運航継続の意義

- ①北近畿豊岡自動車道の開通を踏まえた利用者数[需要予測]
- ②運航収支が赤字であることを踏まえたうえでの、空港の存在意義[波及効果]
- ③利用者数を維持するための取組み

## ■ 首都圏との移動利便性向上など路線展開の可能性

- ①首都圏との移動利便性を向上させる羽田直行便の利用者数[需要予測]
- ②羽田直行便の運航収支のフィージビリティースタディー[収支計算]
- ③関西国際空港や神戸空港への路線展開の可能性
- ④首都圏とのつながりによる飛行機利用者への効果、地域への効果[波及効果]
- ⑤利用者数を達成するための取組み

## ■ 効率的・効果的な空港運営

- ①空港に賑わいをもたらすための方策[観光等]
- ②空港の多面的利用(多様な空港利用、空港用地の利活用方法等)
- ③空港施設の上下一体運営による、管理運営体制の効率化  
→ H27年1月から民間事業者による管理運営を開始